



伊

議会

よび

せ

第60号

発行 伊仙町議会

〒891-8293

大島郡伊仙町伊仙11842

事務局 ☎ (0997) 86-3111

編集 議会広報編集委員会

印刷 尚奄美新社印刷

平成30年度伊仙町駅伝競走大会

(平成30年11月1日(日))

喜念浜海浜公園
Kimerhama
Seaside park

台風24号及び25号により被災された町民の皆様へ

この度の、台風24号及び25号の影響により被災されました町民の皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

今回の大型台風による被害は、建物、港、道路、畑地帯と広範囲におよび、農作物への影響も計り知れないほど甚大であります。今後も引き続き復旧に向けた取り組みを中心に迅速に進めていかなければなりません。

伊仙町議会といたしましても、行政及び町民の皆様と力を合わせ、一日も早く安心して暮らせる生活を取り戻せますよう、また「災害に強いまちづくり」を目指し、今後も全力で取り組んでまいります。

伊仙町議会議員一同



金子万寿夫代議士と伊仙町議会による、町内の被災状況調査時のようす。
平成30年10月13日（土）

平成30年 第3回 伊仙町議会定例会 全議案(9月11日~21日 11日間)

議案番号	議案件名	備考
議案第42号	伊仙町税条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第43号	伊仙町国民健康保険高額療養資金貸付基金条例を廃止する条例	原案可決
議案第44号	字の区域の変更	原案可決
議案第45号	水利施設等保全高度化事業特別型(畑地帯担い手支援型) 分担金負担割合	原案可決
議案第46号	平成29年度伊仙町上水道事業会計の利益処分	原案可決
議案第47号	平成30年度伊仙町一般会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第48号	平成30年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第49号	平成30年度伊仙町介護保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第50号	平成30年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第51号	平成30年度伊仙町上水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
認定第1号	平成29年度伊仙町一般会計歳入歳出決算	認定
認定第2号	平成29年度伊仙町国民健康保険特別会計歳入歳出決算	認定
認定第3号	平成29年度伊仙町介護保険特別会計歳入歳出決算	認定
認定第4号	平成29年度伊仙町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算	認定
認定第5号	平成29年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計歳入歳出決算	認定
認定第6号	平成29年度伊仙町簡易水道特別会計歳入歳出決算	認定
認定第7号	平成29年度伊仙町上水道事業会計歳入歳出決算	認定
(追加議案)		
議案第52号	平成30年度 GEPONシステム機器更新工事請負契約	可決
議案第53号	伊仙町堆肥センター堆肥散布車購入契約	可決
議案第54号	平成30年度 社会資本整備総合交付金目手久団地新築工事建築本体工事 1工区請負契約	可決

平成30年 第3回 伊仙町議会臨時会 全議案(10月26日 1日間)

議案第55号	平成30年伊仙町一般会計補正予算(第3号)	原案可決
議案第56号	平成30年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算(第3号)	原案可決
議案第57号	平成30年度伊仙町簡易水道特別会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第58号	平成30年度伊仙町上水道事業会計補正予算(第2号)	原案可決
議案第59号	平成30年度防災関連施設整備事業防災行政無線デジタル化工事請負契約	可決
以下余白		

平成30年第3回伊仙町議会定例会において

平成29年度伊仙町一般会計歳入歳出決算他6特別会計歳入歳出決算 審査特別委員会

（一部抜粋※委員長報告につきましては、町ホームページ「会議録」をご確認下さい。）

去る、平成30年9月11日に当特別委員会に付託されました「平成29年度伊仙町一般会計他6特別会計歳入歳出決算」は、9月14日金曜日から9月19日水曜日までの6日間、議長並びに議会選出監査委員を除く12名の委員で審査いたしました。その中で9月14日金曜日に現地調査を行いましたので主な項目について報告いたします。

●1件目に、農業支援センター運営の現状について富所長より説明を受けました。9月より新規研修生1名を受け入れし、まずは土づくりについての研修を進めているとの説明がありました。

続いて、もう一つの柱である土壌分析事業について説明がありました。1つの畑から5カ所のサンプルを採取し混ぜ合わせて分析しているとの説明でしたが、議会からは5カ所それぞれ違うPH数値の可能性もあるのでそれぞれのPH数値を計測してきめ細やかな土づくりができるように検討するよう要望しました。

始まったばかりの研修ですが、志布志市農業公社の取り組みなどを参考にしながら、研修制度の充実を図るよう要望しました。



●次に、徳之島高校義名山農場を視察しました。

12カ所、約200aの農場があり現在は荒れ地の状態でした。

県から測量の許可を得たので、払い下げに向けて早急に測量に入りたいとの説明でした。課題としましては、農道や末端水路の改修も必要なため多額の事業費を要する事も説明されました。

まず、早急に測量を行い県から払下げを受けられるよう要望します。



●2件目に、面縄浄水場について担当者より施設概要説明を受けました。平成27年度より3億8千万円の事業費で、全面的な改修工事を実施し東部ダム下流に日量638トンの急速濾過施設と300トンの貯水槽を整備し、平成30年3月に給水開始したとの事でした。この施設の完成により面縄から喜念地区までの水質の改善と給水能力の向上が期待できるものでありました。また本年度には東部ダムの上層水を取水できるよう計画しており、浄水処理費の削減が期待できるとの事でした。

議会として水道水は町民にとって、とりわけ大切なものでありますので今後とも未整備地区の計画的な改修を行い、水質向上及び水の安定供給に努めていただくよう要望しました。



●3件目に、給食センターの調査をいたしました。伊藤所長、栄養士の小池氏からの13項目の要望があり、特に、①台風時の停電により給食が行えない事があることから、発電機の設置・②給食運搬車プラットホームと調理場との間に囲いが無いため衛生的ではない事から間取りの改修・③給食センター本体と外溝との排水管が無いため衛生的ではないので排水管新設工事・④安全な水道水確保のため塩素ポンプの整備の4点が早急に対応してほしいとの説明でありました。耐用年数も残り少ないため、新設工事などとも検討し安心安全な給食供給を要望しました。



平成30年 第3回定例会

一般質問



清 平二議員

安全で安心して暮らせる町づくりを

問 町道・農道において枯れ松や落石箇所は把握しているのか。またその対策を問う。

想定外の災害はいつ起きても当たり前

答 (町長) 100年に1度や50年に1度と



議会で視察した町道「明眼線」

いうことは死語に近い状況である。伊仙町は町道の距離が県下でも長い自治体であり、徹底した調査管理を行う必要があると考えている。

(建設課長) 町道について、枯れ松危険箇所が9箇所、急傾斜崩壊被害想定区域が23箇所。随時対応、処理をしているが具体的な解決策と計画はありません。

(耕地課長) 農道について、枯れ松危険箇所が9箇所、落石危険箇所が2箇所あるが、耕地課としても解決策や計画はありません。

要望 これだけ危険箇所があるにも関わらず、

予算不足による理由や迂回路が無いからではなく、住民の生命と財産を守る観点から一刻も早く危険箇所等を解消し、「安全で安心して暮らせる町」、「災害のない町」として発信できるように取り組んでいただきたい。

職員採用試験は平等・公開を原則に

問 町職員採用は年度ごとに計画しているのか問う。

答 (町長) 基本的には毎年採用となっているが、定

年者等の兼ね合いもあり今後とも理にかなった形で採用していきたい。

問 平成29年度に実施された採用試験の合格者は何名か問う。

答 (総務課長) 平成29年度実施の採用試験の名簿登録者数が17名で30年度にお

いて10名を採用、31年度に残り7名を採用予定です。

要望 伊仙町は子宝の町、特殊合計出生率日本一の

町ですので高校生、大学生の新卒者にも毎年受験機会を与えられるよう要望します。また、厚労省から障がい者雇用等の義務化も課せられています。職員は伊仙町の財産でもあるため、採用試験については憲法第14条及び地公法13条、平等・公開の原則を最大限尊重されるよう期待します。

公営住宅について

問 建設予定地の選定は、どのような形で行われているのか問う。



杉山 肇議員

答

(建設課長) 平成23年度に策定された、「伊仙町公営住宅長寿命化計画」によって選定されている。

問

集落の人が一番自分の集落の問題や課題を分かっているため、今後の住宅建設予定地選定の際は、地域住民や自治会の要望等も判断の中に入れていくべきだと考えるがどうか問う。

答

(町長) 現在、老朽化した住宅を町の計画により随時建替えを行っている状況です。今、公営住宅と民間資金を活用したPFI事業での建設を行っているが、家賃の格差が問題となるため、今後、周辺部の地域を中心にやっていきたいと考えている。(建設課長) 現在、西犬田布、崎原、上晴集落は予定されていませんが、今後必要に応じて長寿命化計画を変更していきたい。

中伊仙集落に公営住宅を!

問

中部地区において、中伊仙集落には公営住宅がありませんが、「集落の地域力向上のために是非」との声が集落青年団から聞こえてくるが、早期計画、早期実現ができないか問う。

答

(建設課長) 集落からの要望や地域の状況等を勘案し、長寿命化計画の変更を行い実施していきたい。

要望

中伊仙集落内には、住居があるにもかかわらず、水路が整備されておらず、生活排水が垂れ流しとなっていたり、水路の蓋がなく、車の離合時に脱輪するなどの問題が多々あります。今後は、集落の平等性も考えながら進めていきたい。



今年完成した「東伊仙西団地」

中学生までの医療費無償化を

問

医療費の自己負担について、未就学児までが2割、それ以降は3割となっているが、無償化に向けての考えを問う。

答

(保健福祉課長) 天城町が昨年度より中学生までの医療費全額助成を行っています。本町においても必要な医療については受診が出来るよう、次年度実施に向けて検討していきたい。

問

単に中学生までの医療費を無償化するのではなく、各種税金等完納後に実行するなど、そのような事を盛り込んでいけばもっと前向きに考えられるのではないか。

答

(保健福祉課長) 財政難ではありますが、財務とも勉強しながら検討して

いきたい。また、天城町も各種税金の納入状況を確認し実施しているとの事であり、その辺りの対策も講じながら、今後進めていきたい。

公共施設の今後の計画は

問

ほとんどの施設が昭和40〜50年代に建設され、老朽化が進み、耐用年数も間近で建替え時期になっている施設も多いと思われるが、今後の計画を問う。

答

(町長) 平成28年度策定の「伊仙町公共施設



上木 千恵造議員



問

各集落の公民館については、今後も順次改修していく計画があるのか問う。

答

(未来創生課長) 町有施設の改修については、

等総合管理計画」に基づき、現在「公共施設等総合整備検討部会」を立ち上げ、協議を行っている。

や家族の元へ帰るケースが大
半だが、高齢者世帯に40〜60
代の子どもが帰るとなると受
け入れが難しいケースも多く
あると思われる。その他の受
け入れ先としては、グループ
ホーム、町営住宅等となる。

問 町営住宅は、町外から
の子育て世代が優先的
に入居しているが、今後、
障がい等のハンデを持った
方々も優先的に入居しても
らう考えがあるのか問う。

答 (建設課長) 今後、必
要となってくるのであ
れば、障がいを持った方も優
先的に入れるような仕組みを
つくっていききたい。

問 現在、伊仙町内にグ
ループホームは1箇所
あるが、入所希望者が多く
待機状態が続いていると聞
かれるが、どう考えている
か問う。

答 (保健福祉課長) 今年
度中に糸木名集落に入
所16名、ショート1名という
形でグループホーム建設予定

となっている。

問 町内には障がいを持つ
た方の作業所(就労施
設)が無く、約30名程度の
方々全員が徳之島町内にあ
る就労施設に通っている。
今後、町内に就労施設の導
入等は検討できないか問
う。

答 (保健福祉課長) 事業
所に関しては、申請が
上がってこない以上どうにも
ならないが、現在、町の取組み
として、地方創生事業を活用
し、高齢者や障がいを持った
方の雇用の創出ができる人材
センターのような公社づくり
を検討している。

障がい者の雇用について

問 障がいの程度により、
就労時における雇用形
態は様々であり一律ではな
いと思われるが、仮に役場
での雇用となった場合、終
日勤務ばかりでなく、2〜
3時間、あるいは半日勤務
等の雇用のあり方は可能な

のか。また条例や規則等が
あり、それらに則って雇用
を行っているのか問う。

答 (町長) 行政として、
国内ではどこもまだ
やっていないわけだが、伊仙町
と伊仙町議会が、このような
条例を制定していくのは可能
ではないかと思うし、今後取
り組んでいかなければならな
いと考えている。これから先、

労働力は雇用人口が減少し、
その中において障がいを持つ
た方々の果たす役割は非常に
大きなものになっていく。老若
男女、障がいのあるなしに関
わらず活躍する、そういう時
代を作り出していかなければ
いけないし、伊仙町において、
そのような仕組みを全国に先
駆けてやっていこうという意
欲と気概があってもいいので
はないかと考えている。



牧本 和英議員

学校給食センターについて

問 学校給食センターの老
朽化が著しいが、補修
または新設の考えがないか
問う。

答 (教育長) 老朽化に
より調理業務に支障を

来しているとい
う状況では
ありません。
給食センター
の新設に関し
て、多額の費
用を要するた
め、当面は入
念な点検、整
備を実施して対応していく。
給食センターは、築何年に
なるのか。また、耐震
調査等は実施している
のか問う。

答 (学給センター所長)
伊仙町学校給食セン

ターは、昭和41年4月にス
タートし、今年で52年目とな
ります。耐用年数は60年であ
り、耐震調査については、未実
施です。

問 今現在、給食センター
ではどのような問題を
抱えているのか問う。

答 (学給センター所長)
昨年、今年と台風の襲
来が多くなり、それに伴った停
電の影響により、発電機を必
要とします。今現在、発電機は
業者からのリースで対応して
いるが、万が一に備え発電機の



伊仙町ふれあい福祉スポーツ大会のようす

設置を検討していきたい。

問

食育施設機能と防災施設機能を併せ持つ「防災食育センター」が喜界町で平成29年5月に完成しています。その施設は、平時は幼稚園から中学校までの子ども達においしい給食を届ける。一方で大規模災害時には避難所兼炊き出し施設としても機能するとの事であった。「長寿・子宝のまち」という観点からも、子ども達の食の安心安全と、大規模な災害時に町民の命を守る施設として、庁舎建設よりも優先する必要があると考えられるが町長の考えを問う。

答

(町長) 給食センターの老朽化が著しい事は十分認識している。一般質問の中でもあったが、今後、小規模の改築同様に民間資金活用など考慮しながら対応していきたい。また、喜界町の「防災食育センター」は、防衛省の予算である。喜界町には、自衛隊の通信施設があり、その中

に新しい役場と接続して防災センターがあり、その中に食育施設があるとの事です。伊仙町では、今年「防災訓練」を再開するが、避難場所として各校区の体育館にするか、ほーらい館に全ての方を集めるか、義名山の総合体育館に集めるかなど、防災会議の中で決定していきたいと思う。また現在、伊仙町の公共施設のあり方についての協議会を毎月2回行っており、その中で、防災センター、給食センターをどのような位置づけにしていくか考慮していきたい。

伊仙町では、今年「防災訓練」を再開するが、避難場所として各校区の体育館にするか、ほーらい館に全ての方を集めるか、義名山の総合体育館に集めるかなど、防災会議の中で決定していきたいと思う。また現在、伊仙町の公共施設のあり方についての協議会を毎月2回行っており、その中で、防災センター、給食センターをどのような位置づけにしていくか考慮していきたい。



伊仙町立学校給食センター

要望

ぜひ予算化していただき、町民が安心して暮らせるまちづくり、そして子ども達が安心安全で給食が食べられる給食センターづくりに向け取り組んでいただきたい。

面縄港振興について

問

休憩施設やトイレ施設がなく、港を利用している方々に不便をかけているが、整備する計画はないか問う。

答

(建設課長) 現在のところ、施設整備の計画はありませんが、トイレの施設等、管理体制をどうするのか調査しながら検討していく。

農業振興について

問

キビ採苗作業員は、南西糖業からの委託を受け取り組んでいる。夏植え時期には暑さや人手不



西彦二議員

答

足で採苗作業が間に合わないと思われるか。現在、農家負担額で1束200円だが、町または南西糖業で100円を計上し、1束300円の採苗料金とすることは考えられないか問う。

答

(経済課長) 100円の値上げについては、採苗作業員の確保・雇用にも繋がるので、今後南西糖業と財源的な所を含め議論していきたい。

スプリンクラー設置について

問

昨年徳之島ダムが完成しており、一部給水が始まっていますが、第一面縄地区のスプリンクラー設置時期について問う。

答

(耕地課長) 目手久、面縄地区を併せて(予算16億4,250万円)平成31年度新規採択の予定で、第一面縄地区について、早ければ32年度、若しくは33年度からの工事着手の予定となっている。

問

伊仙町の中心にあたる役場周辺の県道の緑化



区画整理を終えた畑総第一面縄地区

観光振興について

(植栽等)の計画はないのか。町の一番のメイン通りであり、今後の世界自然遺産登録や観光振興にも向け是非検討できないか問う。

答 (町長) 伊仙町の中心地に関して、これまで

にも緑化の計画がありました。現在は中断している状況です。今後、商工会とも対応をどうしていくかを協議しながら、また町としても考えていかなければいけない課題でもある。



佐田 元議員

住民監査請求の監査勧告について

問 住民監査請求がなされた後、その勧告内容をどのように受け止めているか問う。また併せて、8月22日付奄美新聞でのコメントについて町長の真意を問う。

答 (町長) この件については大変残念であり真摯に受け止めている。また新

聞のコメントに関しては、勧告されている請求金額が妥当であるかどうか疑問であったという事です。

問 当該業者による毎月4万円の返済と、この勧告は全く別のものと考えらるかどうか問う。

答 (副町長) これに対しては事務失態に含め懲罰、懲戒もしており業者から

の返済と、勧告どおり賠償すると二重払いになると考えられる。

確約書について

問 2ヶ月前の当該業者との面会について、誰がいつ、どこで、誰と会ったのか。また面会の結果どのような対応をすることになったのか問う。

答 (社会教育課長) 教育長と私が代表者と面会し、確約書を提出していただいた。

問 この事案発生後の交渉は誰と交渉していたのか問う。

(社会教育課長) 代表者を含め代表者の夫である両名と交渉してきた。

3者間の面会について

問 平成29年6月6日以前に把握していなかった

のか。また、部下職員からの報告等はなかったのか問う。

答 (町長) この日に当時の課長から説明を受けた。

問 経緯報告書には3者で協議を行ったと書かれているが、記憶にないという事か。

答 (町長) 3者ということとはなかつと思つ。

契約書に基づいているか

問 返納額の根拠と返納手続きは契約書に基づいての請求か問う。

答 (社会教育課長) 契約書に基づき行っており、返済は月々4万円を振り込むようになっている。

問 契約書第8条には、年8、25%の遅延利息、違約金(売買代金の100分の10)と定められ

ているが、このことに関して問う。

答 (副町長) この件に関して、今後どのような形で取り扱っていかばいいのかわかることを踏まえ、現在検討中です。

GAP関連の出張旅費について

問 農業生産工程管理(GAP)関連の出張旅費を当時の会長にだけ認めなかった理由について問う。

答 (町長) 町長に与えられた権限は、人事権と予算編成権であり、それを行えるか否かは町長の判断であります。





岡林 剛也議員

交付金の不適正な支出について

問 6月定例議会で明らかになった「平成29年度離島漁業再生支援交付金事業」における不適正な補助金支出事案（社会教育課備品未納問題の発覚中にも関わらず、何ら対策を取らず職員への周知もされていなかったため、同一業者によって再び同様な未納問題が発生した事案）について、町長は「再発防止のため、何より町民の信頼を失う事の無いよう検証委員会は当然すべき」と答弁しているが、具体的な内容と検証結果を問う。

答 (町長) 検証委員会についてはまだ立ち上げていません。

6月議会から3ヶ月以上が経過し、町民の関心の高い不祥事にも関わらず、全く危機管理に対する意識がないと思われるがどうか。

問 6月議会から3ヶ月以上が経過し、町民の関心の高い不祥事にも関わらず、全く危機管理に対する意識がないと思われるがどうか。

釜の代金はどうするつもりか。また、町が業者と直接協議してはどうか。

答 (経済課長) 町としては漁業集落へ補助金を出しているの、漁業集落に対し返還を求めている。当該業者へは返還を求めているが、「可能な範囲で返していきたい」との事です。

本事業における町の役割は、漁業集落に対し指導・助言する立場であるにも関わらずそれはせずに、本来集落がすべき補助金の管理を町が行っていたという長年にわたる杜撰な事業執行が現在のような危機的状況を引き起こしていると考えられるがどうか問う。

問 本事業における町の役割は、漁業集落に対し指導・助言する立場であるにも関わらずそれはせずに、本来集落がすべき補助金の管理を町が行っていたという長年にわたる杜撰な事業執行が現在のような危機的状況を引き起こしていると考えられるがどうか問う。

平成30年度の本事業申請状況はどうなっているのか問う。

答 (町長) 今後、町と漁業集落がどのような関係を築いた方が適正であるか協議していきたい。

問 平成30年度の本事業申請状況はどうなっているのか問う。

答 (経済課長) 現在の問題が解決するまでは、申請できない状況です。

問 事業ができないとなると、これまで行ってきたサメ・オニヒトデ駆除等が水の泡になりかねず、徳之島全域の海に影響する事であり、国や県に対する信用も損なわれてしまうが、どう考えているのか問う。

答 (町長) 県の課長とも何回もお会いし、お詫び申し上げている。

不祥事が起こる度に執行部は同じ事を繰り返すばかりで感覚が麻痺しているのではないかとも思われる。前回も申ししたが、町長は町民に対して謝罪と説明責任を果たす義務があると考えられるがどうか問う。

問 不祥事が起こる度に執行部は同じ事を繰り返すばかりで感覚が麻痺しているのではないかとも思われる。前回も申ししたが、町長は町民に対して謝罪と説明責任を果たす義務があると考えられるがどうか問う。

答 (町長) 今回、一連の件で町に対し大変失望した方も大勢いらっしゃると思います。町長としてしっかり管理できていなかった事をお詫び申し上げ、今後二度と同様な事が起こらないように全力で努力し、伊仙町発展のために頑張つてまいります。



次の定例会は12月です！！

次の定例会 (第4回) は12月11日(火)からを予定しています。

ネット配信も行なっておりますが、ぜひ、生の議会を傍聴してみませんか。

手続きは簡単で、議会の当日に傍聴席入り口の受付名簿に、住所、氏名を記入していただくだけです。

詳しくは議会事務局までお問い合わせください。

電話番号86-3111 (内線16番)

議会の動き

平成30年第3回伊仙町議会定例会における諸般の報告(議長の動静)
動静期間:平成30年第2回定例会(6月15日)以降の分

月	日	行事名	場所
6月	16日	島づくり経済フォーラム	徳之島町
	20日	札幌市議会議員視察	中央公民館
	22日	伊仙町さわやかサロン交流会	総合体育館
	23日	徳之島高校空手部30周年記念祝賀会	農協会館
	25日	徳之島三カ町議連奉仕作業	天城町B & G
	27日	航空自衛隊南西航空方面隊司令官意見交換会	天城町
	29日	トライアスロン大会カーポパーティー	天城町
7月	17日	徳之島三カ町議連第1回役員会	天城町
	18日	総文厚・経建常任委員会	議会委員会室
	20日	奄美ブロック護憲平和フォーラム来訪	町長室
	23日	長野県飯田市議会議員視察	中央公民館
	24日	さとうきび価格対策会議	奄美市
	27~30日	総務文教厚生常任委員会県外研修	志布志市・大阪市

月	日	行事名	場所
8月	2日	市町村政研修会	鹿児島市
	6日	公立高校生徒募集説明会	伊仙町
	9日	徳之島空港利用促進協議会	天城町
	10日	さとうきび夏植え出発式	役場前
	10日	鹿児島県知事意見交換会・夕食会	ほーらい館
	11日	ほーらい館10周年記念式典	ほーらい館
	18日	金婚式	ほーらい館
	26日	ほーらい館祭ちびっこ相撲大会	義名山
	31日	議会運営委員会	議会委員会室
	9月	2日	徳州地域女性連大会
4日		議会運営委員会	議会委員会室
6日		議会全員協議会	議会委員会室
9日		樟南第二高校体育祭	樟南第二高校

※ 掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承下さい。

編集後記

師走に入り少し肌寒さを感じる季節になりました。今年には自然災害の多い年となり、6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部地震。そして、南西諸島に甚大な被害を及ぼした台風24号の直撃と、正に日本全体が災害列島と化した一年でありました。

我が伊仙町においても、台風24号による影響で人家はもちろん、基幹作物であるサトウキビ、畜産等に甚大な被害を受け、農家の皆さんは大変厳しい状況にあります。我々、伊仙町議会においても、全力で復旧・復興に向けて信念と情熱を注ぎ取り組んで参ります。

町民の皆様におかれましては、まだまだ厳しい状況下ではありますが、伊仙町の将来(みらい)を想い、互いに希望を抱き、乗り越えていきましよう。そして来春に収穫をむかえるも一つ一つの基幹作物であるバレイシヨ価格が少しでも高値で取引される事を夢見ながら新しい年を迎えたいものだと思います。

(文責 上木 千恵造)

議会広報編集委員会

委員長 前 徹志
副委員長 杉山 肇
委員 福留 達也
委員 上木 千恵造
委員 佐田 元